

26年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成26年 9月20日～ 26年10月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
入荷動向	国産材	△ 20.0	0.0	△ 10.0
	外材	△ 80.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	国産材	0.0	8.3	0.0
	外材	10.0	△ 20.0	△ 37.5

・国産材ラミナの入荷は、10月の減少から11月の横ばいを経て12月は再び減少に、外材は3ヶ月連続して減少に。
・国産材ラミナの在庫は10月の横ばいが11月に若干増加するが12月には再び横ばいに、外材は10月の増加が、11月、12月は減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
国産材	0.0	8.3	16.7
欧州材	△ 30.0	△ 20.0	△ 30.0
その他	-	-	-

・国産材のラミナ購入価格は10月の横ばいから11月、12月にはやや強保合に

・欧州材は弱保合で推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギラミナは合板向け丸太の荷動きがあまりよくないことと原木価格も弱含みであり、入荷量は潤沢。カラマツは依然として岩手県産材・北海道産材共に原木価格が下がっていないため入荷量は増加してない、スギ在庫はやや増加、ただし入荷調整中、カラマツは在庫調整中で減少。
・国産材の入荷は毎月変わらず購入、外材は在庫調整のため入荷を減らしている。
・契約した分は順調に入荷、当初予想より生産調整が長引くと思われ在庫は増加。

(ラミナ価格動向)

・スギは集成材製品価格の下落に伴いラミナ価格を下げた、カラマツは岩手県産、北海道産に若干の値下げを要請、但し100%の回答は得られなかった。
・国産材は横ばいで推移、外材は為替にもよるが下がっている。
・第4クォーター若干の下げ基調。

26年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/10月	11月	12月
生産動向	国産材	△ 25.0	△ 8.3	△ 8.3
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 10.0	△ 10.0
	RW集成平角	△ 20.0	△ 10.0	△ 30.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 20.0	10.0	0.0
	WW集成管柱	△ 20.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 10.0	10.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・集成材の生産は、国産材、WW集成管柱及びRW集成平角共に3ヶ月連続して減少基調、米マツ集成平角は10月の減少の後11月、12月は横ばいに。

・集成材の出荷は、総じて10月の減少の後、11月は横ばいないし若干の増加を経て、12月には横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/10月	11月	12月
スギ集成管柱	△ 50.0	△ 16.7	△ 8.3
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	△ 50.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 10.0	△ 10.0	0.0
RW集成平角	0.0	0.0	△ 10.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の価格は、3ヶ月連続して弱保合。

・ヒノキ集成柱、集成土台、米マツ集成平角及び米ヒバ土台角は横ばい。

・カラマツ集成土台及び平角は10月の弱含みの後11月、12月は保合に。

・WW集成管柱は10月、11月のやや弱保合の後12月には保合に。

・RW集成平角は10月、11月の保合の後、12月にはやや弱保合に。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

- ・国産材製品需要は依然として低調で、販売量が見込めず、受注に見合った生産量に留まっている。出荷は戸建て住宅の受注減による着工数の減少や災害公営住宅の遅れなどで出荷量が伸びない。期待していた非住宅物件もカラマツ仕様がなく、先行き不透明感は強い。
- ・集成材の動き悪く、良くなる見通しが分からない。8月、9月の出荷が思っていたよりとてまもなく10月も横ばいと思う。
- ・生産は夏場から調整した。出荷は年内盛り上がることはないのでは。

(構造用集成材出荷価格動向)

- ・スギ集成管柱は製品需要が軟化する一方、総体的な生産ボリュームは増加傾向にあり、需給バランスが崩れ価格は弱含み。カラマツはラミナ値下がり受け製品価格も調整局面に入る。但し下げ幅が小さく顧客の希望価格に合わせられず、受注も期待できず依然採算も厳しい。客先における樹種転換も顕著。
- ・社内価格は変更なし、市場で言えば下げの方向。
- ・WWは下げ止まり感ある、RW集成管柱は原価割れ水準。